

内視鏡検査を受ける前の内服薬に関するご説明

内視鏡検査を安全かつ効果的に行うために、検査前の内服薬についてご注意いただきたいことがあります。以下に、検査前絶食でも中止しない薬、中止する薬、減量が必要な薬について説明いたします。

中止しない薬

- 高血圧の薬（降圧薬）
- 心臓の薬（心機能薬）
- 抗てんかん薬
- ステロイド薬
- 抗精神病薬
- 甲状腺ホルモン薬（チラージン）
- 抗血栓薬



抗血栓薬（血をサラサラにする薬）については、近年のガイドラインに基づき、通常は休薬せず
に服用を続けることが推奨されています。ただし、具体的な指示は主治医の判断に従ってくださ
い。

中止する薬

- 鉄剤

鉄剤は胃壁や大腸の中に沈着して内視鏡の視界を悪くする可能性があるため、検査の3日前か
ら服用を中止してください。

- 一部の胃薬（胃粘膜保護剤）

これらの薬が大腸内視鏡検査に直接影響することは少ないですが、胃内視鏡検査の場合には中
止が必要となることがあります。中止の場合は前日の夜から内服を中止します。具体的な指示は
主治医の判断に従ってください。

減らす薬

- 糖尿病の薬（経口糖尿病薬）

経口糖尿病薬は検査当日の朝には服用しないでください。空腹時に行われることが多いため、低
血糖を避けるためです。ただし、飲んだ方がよい糖尿病薬もあるため、主治医又は検査医の指示
に従ってください。インスリンを使用している場合も同様に、主治医の指示に従ってください。

検査前に中止する薬と中止しない薬については、個々の状況や服用している薬の種類により異な
る場合があります。必ず事前に主治医や担当医にご相談いただき、正しい指示を受けてください。内
視鏡検査を安心して受けていただけるよう、私たちもサポートいたしますので、ご不明な点がござ
いましたらいつでもご連絡ください。

内視鏡検査時の抗血栓薬の休薬に関するご説明

内視鏡検査を受けるにあたり、皆様が服用されている抗血栓薬（血をサラサラにする薬）について、休薬が必要なのかご不安をお持ちの方もいらっしゃると思います。以前は、出血のリスクを減らすために抗血栓薬を一時的に中止することが一般的でした。しかし、近年のガイドラインでは、抗血栓薬の休薬は行わない方向へと変わってきています。

この変更の背景には、抗血栓薬を休薬することで生じるリスク、特に心筋梗塞や脳梗塞といった重大な血栓症のリスクが非常に高いことが明らかになってきたためです。現在では、これらのリスクを考慮し、基本的には抗血栓薬を継続したまま内視鏡検査を行うことが推奨されています。

もちろん、個々の患者様の状況によっては、休薬が必要となる場合もあります。そのため、内視鏡検査を受ける前に、必ず主治医や検査医にご相談いただくことが重要です。

以下は、当クリニックでの内視鏡検査時のお願いです。よくお読みになって、検査・処置を受けるようにしてください。

- 検査時には内服薬の確認が必要なため、必ずお薬手帳や内服薬の一覧表、または現物をご持参ください。
- お薬の内容により、どうしても出血の危険性が大きい場合には、休薬又は薬の変更をし、後日改めて処置・生検等を行います。
- 検査の結果、内視鏡治療（ポリープ切除、生検など）が必要な場合には血栓・塞栓症の危険度に応じて抗血栓薬の中止または薬の変更を行います。



▶アスピリン（バファリン・バイアスピリンなど）

基本的には継続しながらも処置可能ですが、休薬の場合は7日間の休薬を行います。

▶シロスタゾール（プレタールなど）

血液をさらさらにする作用は弱いのですが、検査当日のみ休薬で処置を行います。

▶チクロピジン（パナルジンなど）、クロピドグレル（プラビックスなど）

7日間休薬し、その間はアスピリンに変更します。

▶ワルファリン（ワーファリンなど）

採血でINR（血液凝固に関する数値）が1.6～2.6（場合により3.0）なら内服を継続します。

▶DOAC（プラザキサ・エリキュース・イグザレルト・リクシアナなど）

検査当日のみ休薬で処置を行います。

ご不明点やご心配な点がございましたら、遠慮なくお知らせください。